

実践型ISPのススメ

徳島大学COCプラス推進本部
推進コーディネーター
特別准教授
川崎克寛
宮本紀子

PROFILE

川崎 克寛(1970年生まれ)
徳島県立城南高等学校
渡米留学(Univ. of Cal L.A.)
株式会社ワールド
独立(自営業開始2000年~)
内閣府雇用創出事業参画(2009~2011年)
貢日本大震災復興支援活動(つなプロ2011~2016)
内閣府地域活性化伝道師
(特昇)ETICコーディネーター(右肩派遣事業)
朝日、東北電力災害復興支援(日本財團・常陸市)
やハーバー港湾復興支援(同上・Tare Nepalほか)
日本財团被災者支援開拓課監修官材育成事業
2010年2月1日~現在
徳島大学 COCプラス事業
推進コーディネーター担当

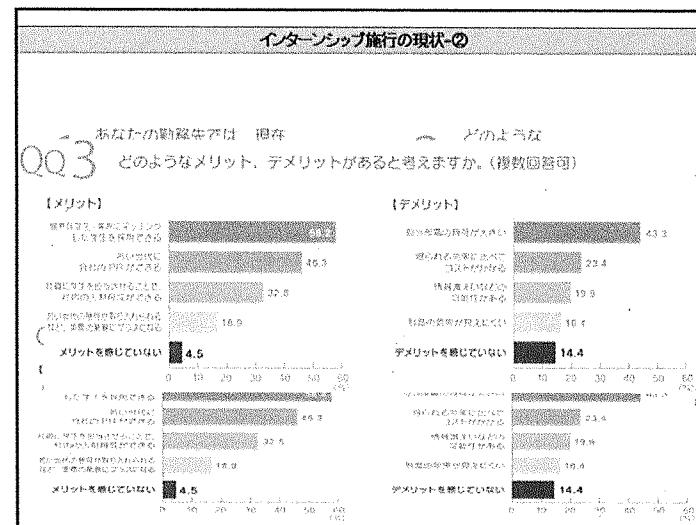
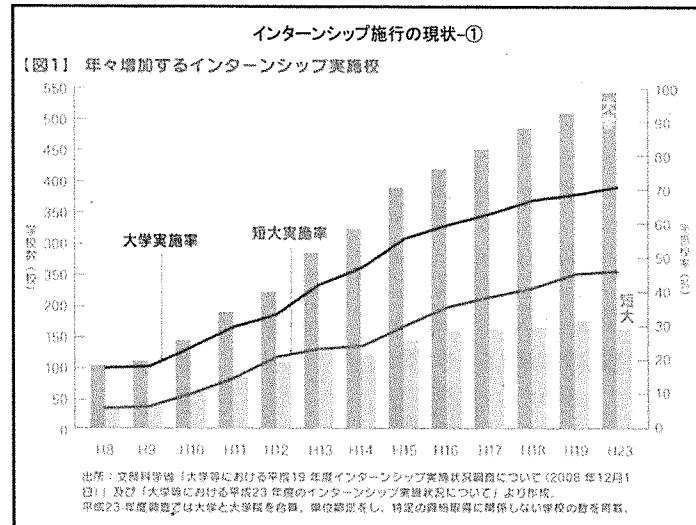
ISP(インターンシッププログラム) 日本と海外の概念の違い

	日本 【ISP=就業体験】		アメリカ 【ISP=キャリア形成&採用】
留学生が企業へのアプローチを図るのにあたって実習・研修的な就業体験を行うことであるが、(中略)学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこととして幅広くとらえている。		留学生が自動的に企業へのアプローチを図るのが基本また、企業側も学生への直接的なアプローチによる参加者の選別が主たる方法。長期にわたるインターンシップを通じて、学生の働きぶりや適性を評価、ここに学業成績を加味したうえで採用の有無を決めていく。	
	中国 【ISP=採用直結】		イギリス 【ISP=産学連携】
欧米諸国と同じく期間は2ヶ月ほどのものが多い。インターンシップの評価に学業成績が加味され採用の有無が決められる。企業のターゲットとなる大学が凡そ決まっており、入学するための競争が激しい。さらにはそこからインターンシップへの参加権を勝ち取り、より良い就職先を得る。		第2学年と第3学年の間の1年間を就業体験の場に当てるところから「サンドイッチコース」といった名称で呼ばれている。採用に結び付いているのはもちろんであるが、大学側が主体となって取り組んでいるキャリア教育プログラムであり、産学のパイプの強さや信頼のもとに制度設計がなされている。	

平成29年6月16日
インターンシップの更なる充実に向けて議論のとりまとめ
インターンシップの推進等に関する調査研究協力者会議

【主なテーマ】

- インターンシップを取り巻く背景・現状について
- インターンシップの意義及び実施にあたっての課題
- インターンシップのあり方について
- インターンシップの量的拡大・質的充実に向けた具体的な推進方策について
- インターンシップと就職・採用活動との関係について
- 多様なインターンシップの推進に向けて



インターンシップ導入(実施)の意義と課題

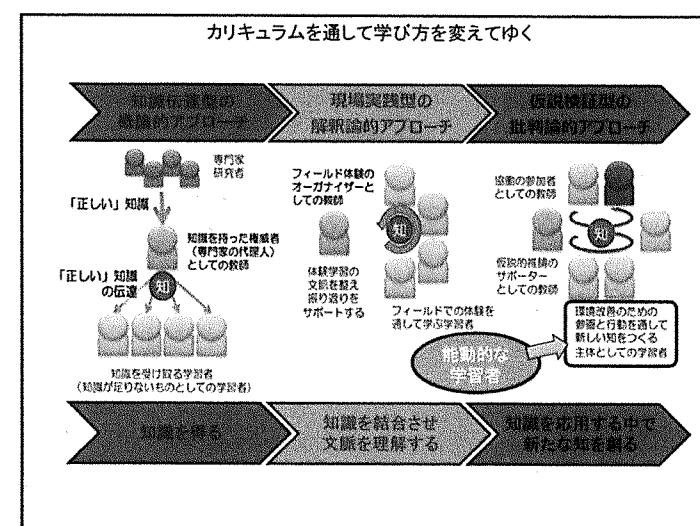
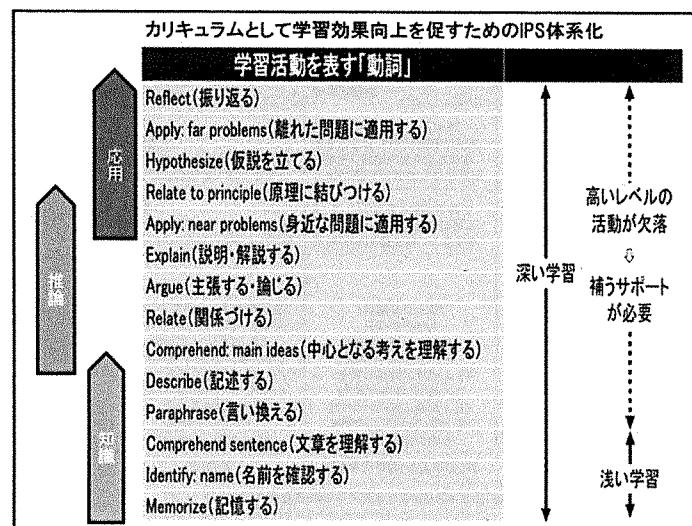
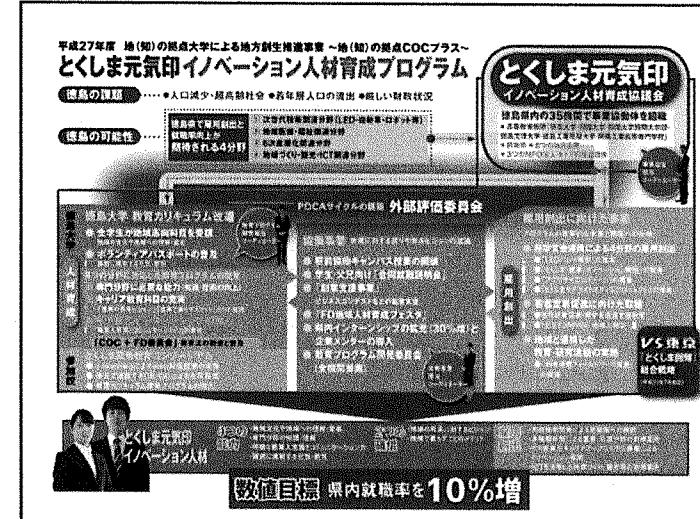
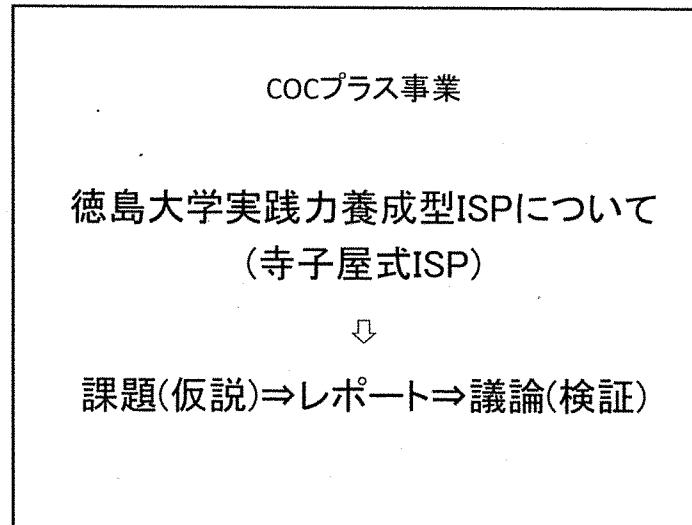
【現状について】

	改善項目
企業	意義:業務内容等の理解促進/職場の活性化/産業界ニーズの教育への反映/社会貢献 課題:社内理解形成・受入部署確保困難/インセンティブが乏しい/業務量の増加
学生	意義:業務理解の促進/職業意識の育成・向上/専門性の深化・向上/学習意欲喚起 課題:学業等との両立が困難/ISPの内容に魅力を感じない/活動中にかかるコスト
大学	意義:企業が求める人材ニーズの把握/教育活動に対する企業理解促進/共同開発・研究 課題:他の授業科目(学内理解)への影響/ISP立案・設計ノウハウの欠如/扱い手人材不足

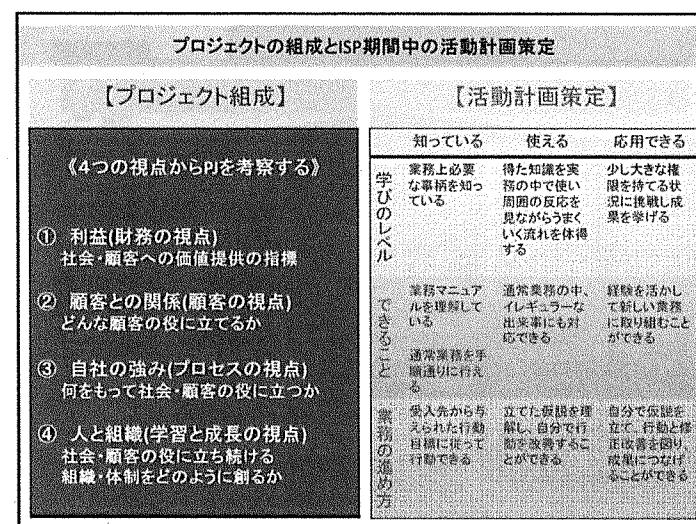
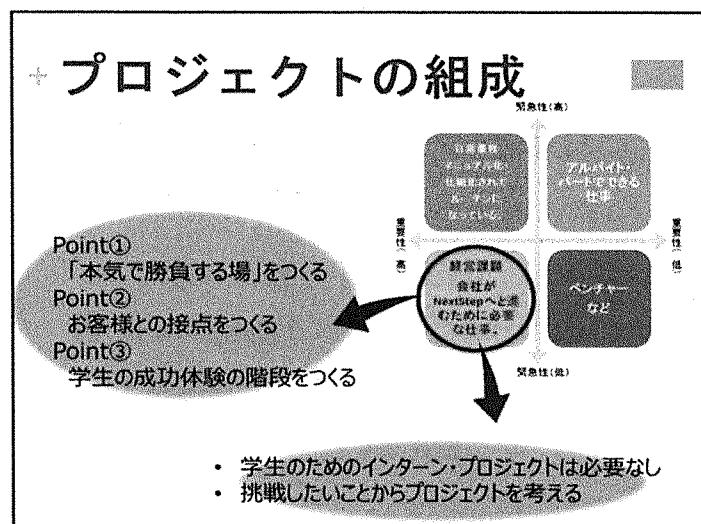
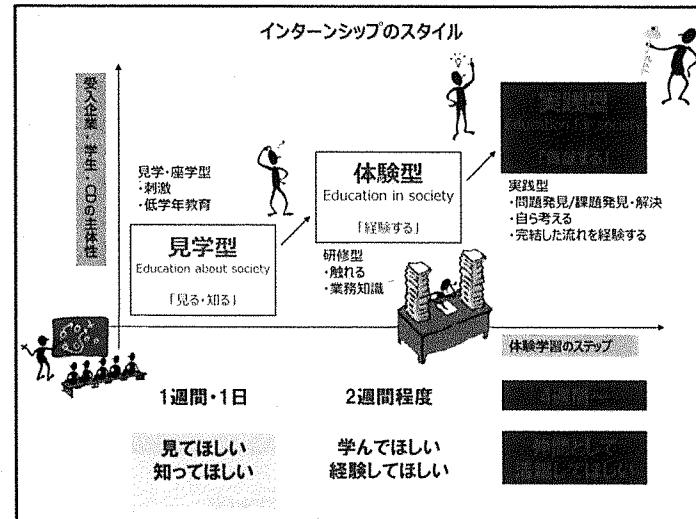
インターンシップの定義
学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに
関連した就業体験を行うこと

平成29年6月10日
インターンシップの量的拡大・質的充実に向けた推進方策(ISP推進調査研究協力者会議)

対象	主な方策	内容
国・大学	制度導入によるISPの普及・拡大	教育的効果向上のための好事例公開と正規教育課程ISP普及 産学官協働による大学コンソーシアム組織設立 ロールモデルを設定、情報発信、表彰制度策定
大学・国	専門人材の育成・配置	ISP構築・運営を図ることのできる専門人材の育成・配置 プログラムの継続性・持続性の担保(FD/SDへの反映と充実) 地方公共団体・経済団体・NPO等と連携し人材育成を実施
企業・大学 地域・国	地域におけるISP推進のための協議会等の充実	産学官協働によるISP拡大・充実に向けた関係強化を実施 地域課題とリンクしたISPの設定と地域ネットワークの構築 地方自治体によるISP持続・発展的推進に向けた連携策構築
国・大学	ISP実施に係る負担の軽減	中小企業のISPへの積極的参加促進のための環境醸成 中小企業庁はじめとする関係省庁による支援策の策定 ISP実施手引書作成等によるマニュアル化、効率化を図る 全国的ISP推進組織の構築
大学	ISPによる教育的效果の向上	ISP版ポートフォリオの開発 ロールモデルの開発 大学1~2年生教養教育との連携策構築



テーマ 科目名	カリキュラムとして学習効果向上を促すためのIPS体系化(学内プログラムとの連動)		
	SIH道場	実践力養成型(寺子屋式)ISP	創成型(ハイペーション)道場
重複する学習活動	Memorize(記憶する) Identify: name (名前を確認する) Comprehend sentence (文章を理解する) Paraphrase(言い換える) Describe(記述する) Comprehend: main Ideas (中心となる考え方を理解する)	Relate(関係づける) Argue(主張する・論じる) Explain(説明・解説する) Apply: near problems (身近な問題に適用する) Relate to principle (原理に結びつける) Hypothesize (仮説を立てる)	Relate to principle (原理に結びつける) Hypothesize (仮説を立てる) Apply: far problems (離れた問題に適用する) Reflect(振り返る)
目標とする学習	与えられた教材で記述される事象を、学んだ知識を用いて説明できる	既知の知識群を用いて新たな事象を説明する仮説を設定でき、かつ解決法を導き出せる	既知の知識群に基づく仮説の検証修正を通して、新たな知識を生み出せる
テーマをふまえた目標とする状態	企業の課題解決に関する先行事例を知り、課題設定の方法を理解する	企業の課題解決のための仮説を設定し解決に至るまでの計画を立てる(解決を図るためにの行動を起こすことができる)	企業の課題解決のための仮説を検証し実効性のある成果を生みだす
評価手法	形成的評価 学習者の相互作用プロセスの評価 知識と論理性の評価	形成的評価 仮説設定と解決策を計画遂行するまでのプロセスの評価 インパクト評価	形成的評価 仮説検証プロセスの評価 インパクト評価



失敗する3つのケース

(1)期待をしていない。

- 単純労働力、流れ作業に従事 or 学生用にわざわざ…
- インターン生及び受入先にとって本気の現場でない
- 顧客接点なし フィードバックなし

(2)仮説がない。

- 学生らしく好きにやって欲しい
- 経営者 or 受入担当者がプロジェクトにコミットしない
- アイデアに期待しそぎ

(3)学生が受け身。

- 参加するまでに受入先との採用面談や事前課題などのハードルがない
- 確たる目標や主旨を持って「決断」していない
- 自己責任で参加できるか 自分自身の課題として取組むことができるか

実践型インターンシップ導入による企業にとっての価値とは？

企業にとってのインセンティブは「事業成果」と「組織変化」

1回の受け入れでの成果判断ではなく長期的な視点に基いて
ISPを戦略的に活用し、事業成果・組織変化につなげることができるプログラム開発

事業成果	組織変化		
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 新規事業が立ち上ったか ✓ 新規事業の仮説が検証されたか ✓ 顧客拡大に貢献したか ✓ 新商品開発など自社製品を持つきっかけになったか ✓ 売上に貢献したか ✓ 担当者として事業加速を担ったか 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 業務プロセスが改善されたか ✓ 経営者の姿勢が変化したか ✓ 社内風土が変化したか ✓ コミュニケーション態勢が変化したか ✓ 若手人材の育成に繋がったか ✓ ビジョンへの変化がみられるか ✓ 目標が明確化したか ✓ 評価が改善変化したか 		
評価指標			
新規事業立ち上げ	新規開拓の創出	人材との接点	組織変化
<ul style="list-style-type: none"> ・新規事業が立ち上ったか ・仮説が検証されたか 	<ul style="list-style-type: none"> ・販路開拓やマーケティング、新商品開発など新規開拓が創出されたか 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで採用したことがない人材が出会い出したか 	<ul style="list-style-type: none"> ・社員の成長が見られるか ・組織風土がポジティブな変化をしたか

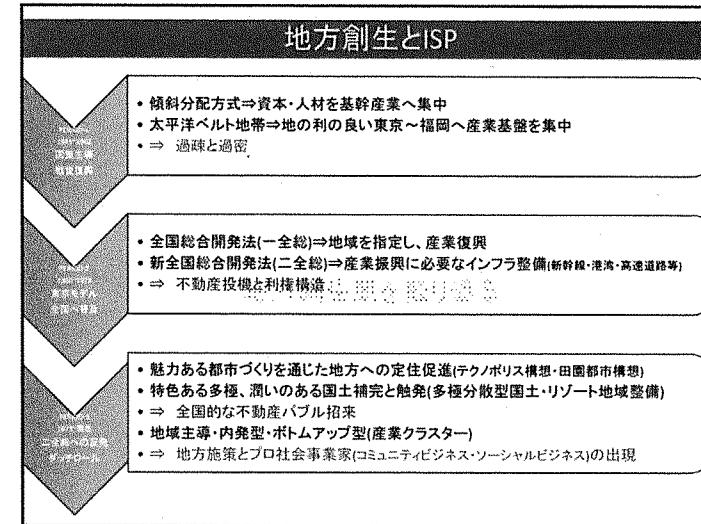
目指していきたいモノ

大学という機能を基点に
人と地域が交流し
学び、成長し、発展できる
仕組みを創造する



地方創生とインターンシップ

THEME
教育と産業の連携を図り
人材を囲い込むことは
できないのか？



地方創生とインターンシップ

欧米型『地域での人材囲い込み』施策

アメリカ	フランス
トップ私立大学 700万円/年間 地方公立大学 200万円/年間 (同州在住者 50万円/年間)	アプロンティサージュTAX (企業毎に人件費の0.6%) ↓ ①国に支払う⇒大学授業料は無料 ②任意の商工会に寄付⇒奨学金として使用 グラントゼコール(エリート養成校) =地元エリートの囲い込み =1校100～400名程度の少人数精鋭 + 地域毎に商工会が運営 連携講座(企業別訓練)・長期企業研修 企業の職務に合わせて要成可能 支那ベースで採否決定が可能 長期研修(ISP)により他社への応募ブロック

**企業との連携
(奨学金 + 講座開設)**

地方創生とインターンシップ

ネクサス(絆)型産業共存体制を創る

事例)大企業が東京移転しない2地域

- 京都**
京セラ・オムロン・島津製作所・村田製作所・HORIBA
NIDEC・ROHM...
- 三河・瀬戸**
トヨタ・スズキ・ヤマハ・NGK・AISIN・DENSO
大同特殊鋼...

